

流域市民活動の行動と提案による 相模川の不法投棄の防止

市民ネットワーキング・相模川事務局 川嶋 庸子

相模川の紹介

相模川は富士山麓の山中湖を源流に山梨県で桂川、神奈川県で相模川と呼ばれている全長113kmの一級河川です。明治初期、日本で初めて横浜までの水道を引いたのを手始めに、100年以上過ぎた現在もなお、都心部に近いということから相模川の水は高度利用されています。取水のためダムや堰が多く建設され水量は少ないので、河川敷が大きく広がり地域住民のいこいの場所などに利用されています。

最近のアウトドアブームの中、相模川は休日になると多くの市民が都会から自然を求めて乗り付け、車でいっぱいになります。魚釣りやバードウォッチング、バーベキューやカヌー、またモトクロスや模型飛行機リモコン操縦場などアウトドアも多岐にわたってきています。河川敷の利用はモラルを持って使う以上は何の支障もありませんが、車で川に入ったりバーベキューのかまどに川原の石を使うなど目に余る行為も多々見かけます。

相模川でネットワークの組織化

相模川の水は神奈川県民の6割が水道水として利用していることもあり、以前より県と流域市町村は相模川を愛する会等を組織し、相模川の保全に力を入れていました。また市民としてもネットワークの必要性を感じていました。

(資料 さがみがわアクションマップ)

しかしフィールドだけが同じというネットワークは関わる市民や団体の価値観も活動内容も違ってくるため、集合して継続していくのは非常にむずかしい状況でした。そこでそれぞれの活動を尊重し、ゆるやかにネットワークすることを目的に試行錯誤を重ね、相模川では誰もが気になるゴミを共通テーマに活動を続けていく



資料 さがみがわアクションマップ

ことにしました。2年の準備期間を経て1995年7月1日に市民ネットワーキング・相模川 (CNS) を発足させました。現在150人の会員と25人の世話人で構成されています。

相模川クリーンキャンペーン

(写真 ソニー厚木の社会貢献活動)

'95年から3年間神奈川県が流域市町村に相模川全域のクリーンキャンペーンを呼びかけた際、CNSは単なるゴミ捨てに終わらせず、ゴミ・水質・水生生物の調査を組み入れることを提案しました。(資料 相模川クリーンキャンペーン)

3年間のゴミ調査から、たばこのフィルターや空き缶が多いので、たばこ会社や飲料メーカー

流域市民活動の行動と提案による相模川の不法投棄の防止

市民ネットワーキング・相模川事務局 川嶋 庸子



写真1 ソニー厚木の社会貢献活動

に改善を求める必要があると提案しました。そして散乱ゴミそのものはモラルの向上や景気の停滞で減少傾向にあり、むしろ市民が手をつけることのできない不法投棄が目立つようになっていました。不法投棄は相模川に棄てにくる確信犯であり、この部分に焦点をあてなければ、いつまでたっても相模川のゴミ問題は解決できないという声が聞こえてきました。

不法投棄ゴミ調査

’97年から相模川高田橋の近くに住んでいる一人の世話人が、毎週土曜日散歩のついでに河川敷に棄ててある不法投棄の状況を地図に落とし警察や管理者に連絡するという活動を始めました。2ヶ月を経た連休明け、河川敷に米軍バスが棄てられましたが、米軍基地は治外法権ということで直接交渉ができません。そこで米軍基地を監視している市民団体に経緯を調査してもらおうと、払い下げてもらった業者が棄てたことが判明しました。そして1ヶ月後、その業者がバスを撤去し、そばにあったトラックもきれいに片づけられました。これまで廃車の情報を届けても棄てた人を特定するのに半年以上、結局判明できず1年過ぎてようやく税金で処理



資料

相模川クリーンキャンペーン



資料

相模川河川敷ゴミ調査

するという状況でした。(資料 相模川河川敷ゴミ調査)

一人で始めた調査活動は、一見監視活動にも受け取られ、この河川敷での不法投棄が徐々に減少しました。また近くの漁業組合、警察、管理者の協力も得られるようになり、常にきれいにしておくことがゴミを捨てさせにくくすることもわかってきました。そこで他の河川敷でも始めることにして現在5カ所に活動が広がっています。(資料 相模川不法投棄マップ)

河川敷利用の問題

相模川は首都圏郊外に位置しているため、河川敷はグラウンドや公園など多岐に利用されていますが、自然に残されている場所も多くあります。しかし河川敷は自由使用という原則に基づいているため、おかしい利用のされ方をしている場所もあります。

その一つが小田急線橋下の河川敷です。ここは厚木市街地至近の上、小田急線本厚木駅に近いので、河川敷には昼間300台、夜中でも100台もの車が駐車していました。そのほとんどが相模川に遊びに来た車ではなく、買い物や小田急



資料 相模川不法投棄マップ

線に乗って出かける人のための無料駐車場になっていました。(写真 無料駐車場になった河川敷)

そこには常に30台近い廃車があり、廃車の周りはゴミ捨て場になり、野宿者が住みつき、'98年に60台、'99年には20台が洪水時に流されるなど放っておけない状況でした。そこで車の出入り調査や運転手にアンケートをとり、地元自治会や商店街、そして漁業組合にも働きかけ、この河川敷の管理の仕方を施策提案することにしました。

この場所は昼間相模川に癒しを求めてくる市民も多いことから、全面締め切りよりも夜間のみの締め切りを提案しました。'99年12月15日より冬は17時から9時、夏は19時から9時の締め切



写真2 無料駐車場になった河川敷



資料 相模川ごみ探偵団

りを始め、不法投棄が激減しています。

監視システムの構築

監視活動を続けていても実際に棄てる現場に出くわすことはないの、誰がいつ何を棄てるのか1年間24時間継続して調査することにしました。仕事帰りの業者が夕方棄てる、休日に家を片づけてゴミ収集の日まで待てなくて棄てるなど、真夜中に棄てに来ることはないということなどがわかりました。また場所は以前に棄てられた場所に重ねて棄てられる、大通りから離れた場所に棄てられることなどがわかってきました。

このようなデータを元にマニュアルを作成、

流域市民活動の行動と提案による相模川の不法投棄の防止

市民ネットワーキング・相模川事務局 川嶋 庸子

監視する時間や場所を想定することができ、地元警察署と一緒にパトロールをしたり、学習会を重ねて市民を組織することができました。現在CNSは相模川のゴミ問題については「私たちに聞いて」と専門家集団としての自負を持ち始めています。(資料 相模川ごみ探偵団)

浚渫土

相模川はダムや堰が多いために上流からの石や土の供給が少なく、河床が下がり石ころがなく粘土層が見えている場所もあります。また相模川の河口、相模湾では海浜が貧弱になり、数十メートルも後退して絶壁になってしまった場所もあります。

一方相模湖では土砂の堆積量が多く、過去に床下浸水が起こり、地元住民の要望もあり浚渫しています。ゴミ問題に一応の結論を導き出したCNSとしては、上流の浚渫土を下流に流すことができないだろうかという課題に取り組むことにしました。

相模川の河川敷には道路工事などで出てきた残土を棄てられることがあります。

これは草が生え自然に紛れ、洪水などで流されてわからなくなります。残土には何が含まれているのかわからず、しかも泥で石ころなどが埋まりコケが生えにくくなり、鮎などの生息にも影響を与えます。そこで浚渫土の状態や流した場合の影響評価を専門家の協力を得ながら市民の手で探ろうと考えています。(写真 浚渫土について世話人会で学習会)

3現主義

CNSは現場・現実・現金主義の3現主義をモットーにしています。机上の会議よりも現場から見えてきた問題の解決に努力する、理想を追



写真3 浚渫土について世話人会で学習会

い求めるあまり現実性を失わないなど、常に基本をおきながら活動が続けています。

CNSという組織は現場を抱えた市民が手弁当で動く活動をまとめて連携していくネットワークです。このネットワークを維持するために、流域にちらばったCNSの世話人は常に情報の共有化を図る必要があります。そのために最近のインターネットは非常に役立っています。

またCNSの情報を多くの方に知っていただくために年に6回の通信発行、活動の紹介のチラシやリーフレット、そして報告書などを作成しています。CNSが相模川のごみのみに特化した活動にならないように写真愛好家などの協力を得て、自然や文化の写真や資料を集めたCD-Rの作成を行い、事業助成を申請して活動を継続しています。(写真 カワセミ：写真提供 川蜚写友会・CNS会員 荻原孝夫さん) 今後CNSの事業に対して評価や期待が無くなった時、つまり助成が受けられなくなった時がCNSの存在意義が失われた時だとの認識を持っています。これが常に現金主義を掲げている理由です。このような理由から今回の受賞は副賞を含めCNSの活動をさらに継続するのに大きな励みになります。



写真4 写真提供 川蜉写友会・CNS会員 萩原孝夫さん

最後に

今回の表彰にあたって建設省京浜工事事務所相模川出張所と神奈川県相模川総合整備事務所から以下のような推薦文をいただきました。

相模川出張所所長「市民ネットワーキング相模川において取り組まれている活動は、ゴミの不法投棄抑制のあり方を模索するもので、現実
に成果を見せており、今後、この意識の高まりが、一般市民のボランティアにまで発展し、社会全体で不法投棄を抑制するシステムとして重要な働きをもつものと評価します。」

相模川総合整備事務所所長「市民ネットワーキング・相模川（CNS）は、水源河川である相模川の河川環境保全に日頃から夜間にも及ぶ精力的な活動を展開しております。

特に、散乱ゴミ、放置車両等による河川環境悪化防止の為、行政が対応困難な調査を綿密に行い、行政と連携することにより不法投棄防止対策が効率よく実施でき、数年前と比較し相模川の河川環境が大きく改善されております。

このような日頃の活動が地元自治会、商店会等に河川に対する愛着や河川環境保全に対する意識を大きく向上させております。

又、当所の事業推進に係る県民懇話会のメン

バーとして貴重な意見の提言を受けており河川管理者としてCNSの活動に感謝するとともに今後の活動を期待し日本水大賞に推薦します。」

日頃のCNSの活動を評価・認知していただきありがとうございました。今後も会員でアイデアを出し合い、おもしろく活動を続けていきたいと思います。